

畜産試験場受水槽更新工事

図面リスト		
図面番号	図面名称	縮 尺
M-01	表紙・図面リスト	—
M-02	機械設備工事特記仕様書（1）	—
M-03	機械設備工事特記仕様書（2）	—
M-04	配置図、付近見取図	1/1500
M-05	給水設備 改修後 機器表、凡例、受水槽基礎参考図、受水槽断面図	1/50
M-06	給水設備 改修後 受水槽平面図	1/50
M-07	給水設備 改修後 フェンス工事参考図	1/50、1/30
M-08	自動制御設備 改修後・撤去 受水槽平面図	1/50
M-09	給水設備 撤去 機器表、凡例、受水槽基礎・フェンス参考図	1/50
M-10	給水設備 撤去 受水槽平面図	1/50



機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

I. 工 事 概 要

1 工 事 場 所 東伯郡琴浦町松谷

2 建 物 概 要

番 号	建 物 名 称	構 造	階 数	建築基準法による 延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備 考
1					() 項	
2					() 項	
3					() 項	
4					() 項	
5					() 項	

3 工 事 種 目 (● 印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番 号	1	2	3	4	5	屋外	備 考
● 空気調和設備								
● 冷暖房設備								
● 換気設備								
● 排煙設備								
◎ 自動制御設備							○	
● 衛生器具設備								
◎ 給水設備							○	
◎ 排水設備							○	
● 給湯設備								
● ガス設備								
● 浄化槽設備								
● 消火設備								
● さく井設備								
● 電気設備工事								
◎ 建築工事							○	

4 設 備 概 要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

● 印の付いたものを適用する。

項 目		設 備 概 要			
空 気 調 和 ・ 冷 暖 房 設 備	● 空気調和設備	● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式			
	● 冷暖房設備	● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式			
	● 暖房設備	● 温水暖房	● 蒸気暖房	● 温風暖房 (● 局所式 ● 中央式)	● 床暖房
	● 熱源	● 電気	● 灯油	● A重油	● ガス ● バイオマス
	● 主要熱源機器	● 鋼製ボイラー ● テリングユニット ● 直だし吸収式温水機 ● バイオマスボイラー	● 鋳鉄製ボイラー ● スクリュー冷凍機	● 真空式温水発生機 ● 遠心冷凍機 ● 小形吸収式温水機ユニット ● ルームエアコン	● 無圧式温水発生器 ● 吸収式冷凍機
換気設備		● ヒートポンプパッケージエアコン (マルチタイプ ● 有 ● 無) ● 温風暖房機 ● F F 暖房機 ● その他 ()			
排煙設備		● 機械排煙 (適用法規 ● 建基法 ● 消防法)			
自動制御設備		● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式			
衛 生 設 備	◎ 給水設備	給水方式	● 水道直結方式 ● 高置水槽方式 ◎ ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式		
		水源	● 水道水 ◎ 井水 ● 工業用水		
	● 排水設備	排水方式	● 自然流下 ● ポンプ排水 (● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水)		
		放 流 先	汚 水	● 公共下水道	● 浄化槽
			雑 排 水	● 公共下水道	● 浄化槽
			雨 水	● 公共下水道	● 側溝 ● 河川
		浄 化 槽	処 理 方 式	● 小規模合併	● 合併
			処理水放流先	● 排水路	● 側溝 ● 河川
	● 給湯設備	● 局所式 (● ガス ● 油 ● 電気) ● 中央式 (● 油 ● ガス ● 電気)			
	● 消火設備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連結送水管 ● 連結散水 ● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火 (● 窒素 ● 窒素系) ● ハロゲン化物消火			
	● ガス設備	● 都市ガス (MJ/Nm3) ● 液化石油ガス			

II. 特 記 仕 様

1 一 般 事 項

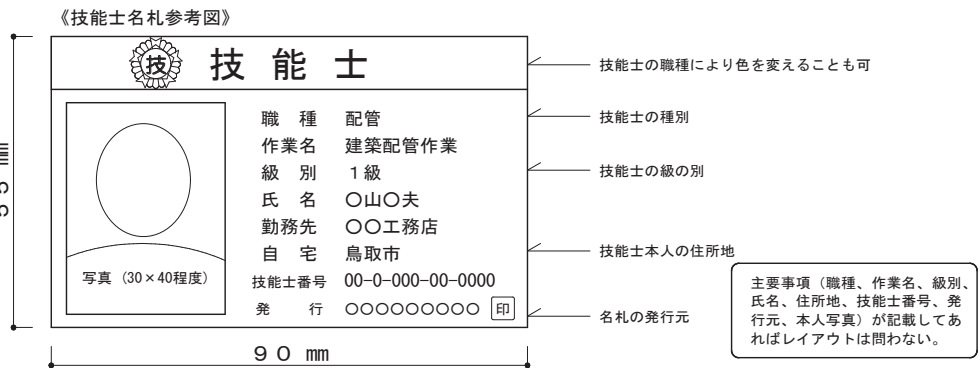
- (1) 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
- ◎ 印の付いたものによる。
 - ◎ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）（以下「標準仕様書」という。）
 - ◎ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
 - ◎ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和4年版）（以下「標準図」という。）
- (2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針（令和4年版）」（以下「監理指針」という。）を適用する。
- (3) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

2 特 記 事 項

- (1) 項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項のうち選択する事項は ◎ 印の付いたものを適用する。
- ◎ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。
 - ◎ 印と ※ 印の付いた場合は両方を適用する。
- (3) 一般共通事項のうち (1)、2、3、11、12、14、15、16、17、18、36) 項は、● 建 築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

一 般 共 通 事 項

項 目	特 記 事 項
① 官公署その他への手続 ② 電気保安技術者	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。 工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1. 3. 2によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。 引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り () 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う (● 廃石綿 (配管用保温材) ● P C B 使用機器 ● 天井材) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物) は関係法令に従い適切に処理を行う。 P C B 使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 撤去予定機器の微量P C B 分析 ※ 無し ● 有り 再生資源化を図るもの ※ 無し ◎ 有り (◎ コンクリート塊 ● アスファルトコンクリート塊 ●)
③ 工事安全計画書等 ④ 発生材の分析及び処理	本工事に使用する設備機材等は、設計図面に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。 ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図面に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。 J I S 等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1. 4. 2 (3) の品質及び性能を有することの性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。 機械設備工事機材承諾図様式集 (令和4年版) によるほか、監督職員の指示による。 機器類は、図示する形状、配管等などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。 機器類の能力、容量等は、原則として図面に記載されている値以上とする。 電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。 下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札 (下図参考) を常時着用する。 ◎ 配管 (● 1 級 ◎ 2 級) ◎ 熱絶縁施工 (● 1 級 ◎ 2 級) ● 冷凍空気調和機器施工 (● 1 級 ● 2 級) ● 建築板金 (● 1 級 ● 2 級)
⑤ 機材等	
⑥ 機材の品質・性能証明	
⑦ 機材の承諾図 ⑧ 図形等の表示 ⑨ 電気容量及び機器表示	
⑩ 技能士の適用	
⑪ 施工図等 ⑫ 完成写真等	



提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを提出する。

区 分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出
工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1 部 ● 部	◎ 要 ● 不要
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2 部 ● 部	◎ 要 ● 不要

一 般 共 通 事 項

⑬ 完成図等

次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。

区 分	名 称	部 数
※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ※ C A D データ ※ P D F データ 施工図 ● 原紙 ◎ C A D データ ◎ P D F データ	1 部
※ 完成図 2 つ折製本	◎ 完成図 ◎ 完成図 (縮小版) ◎ 施工図	※ 2 部 ● 部
※ 完成図書 ※ A 4 版市販ファイル ● A 4 版黒表紙製本	◎ 完成図 (縮小版) ◎ 主要機器図 ◎ 試験成績書	※ 2 部 ● 部
※ 保守用説明書 (A 4 版ファイル)	※ 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2 部 ● 部
※ 保証書		1 部
※ 官公署の届出書類		1 部
◎ 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。		

14 他工事との取合

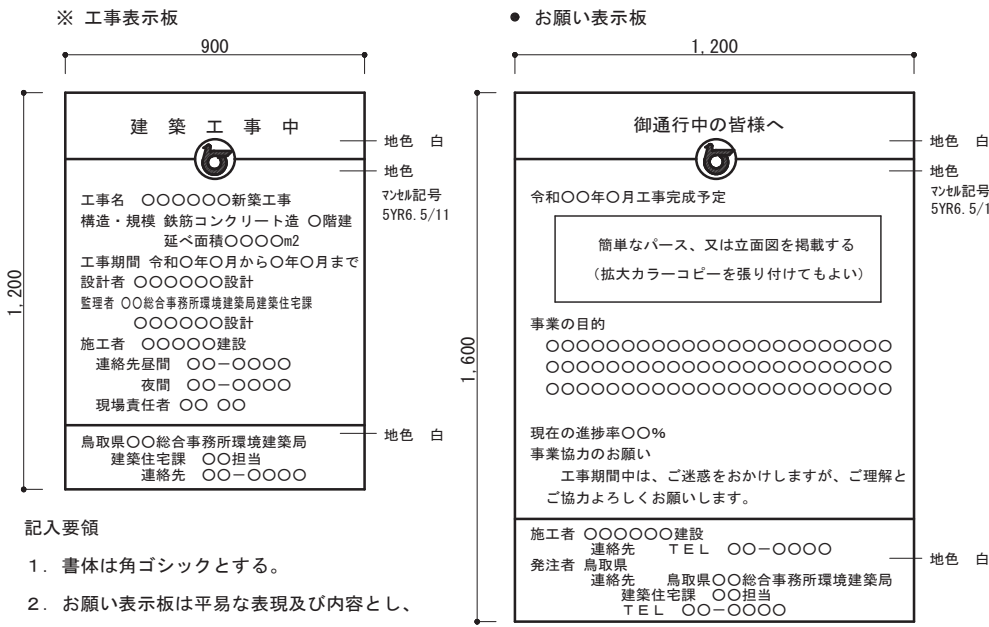
他工事との取り合い		建 築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入	●	●	※
	補 強	※	●	●
● 鉄骨造の開口及び補強		※	●	●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くぎ処理共)		●	※	●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		●	※	●
● 埋込分電盤・端子盤・ブルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮 枠	●	※	●
	補 強	※	●	●
● O A フロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※	●	●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切 り 込 み	●	●	※
	補 強	※	●	●
● 自動開閉装置を付付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		※	●	●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びビット (蓋を含む)		※	●	●
● 天井点検口		※	●	●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置	●	●	※
	屋 上 設 置	※	●	●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		●	●	※
● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等) の取付及び配線		●	●	※

⑬ 工事用水・電力・その他

⑬ 表示板

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。

設ける。(寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一緒に表示する。)



記入要領

- 書体は角ゴシックとする。
- お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督員が指示するものとする。

「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

構内に作ることが ※ 出来る ● 出来ない

(ア) 埋め戻し土 ◎ 根切土のなかの良質土 (◎ コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類)

- 山砂の類 ()
- 真砂土 ()

(イ) 建設発生土処分 ◎ 構外に搬出 ● 構内に敷ならし ● 構内の指示する場所に堆積

- 冷温水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム)
- 蒸気管 (● ロックウール ● グラスウール)
- ◎ 給水管 (● ロックウール ◎ グラスウール ◎ ポリスチレンフォーム)
 - 保温チューブ (厚さ◎) ●
- ◎ 排水管 (● ロックウール ◎ グラスウール ● ポリスチレンフォーム)
- 給湯管 (● ロックウール ● グラスウール ● 保温チューブ (厚さ◎))
- 消火管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム)
- ダクト (● ロックウール ● グラスウール ●)
- 燃焼熱源等機械室内の配管 (● ロックウール ● グラスウール)
- 全熱交換機の給気ダクト (● 機器外気側 ● 機器室内側) は保温 (グラスウール25mm厚) する。
- 冷媒管の保温外装 屋内 (● 樹脂製化粧ケース ● 合成樹脂製シート ●)
屋外 (● 樹脂製化粧ケース ● S U S 鋼板 ●)

鳥取県
令和7年度
J2500271
中部総合事務所

工 事 名	図 名	縮 尺	管理建築士	査 図	担 当	作 図	作 図	年 月	頁 02
畜産試験場受水槽更新工事	機械設備工事特記仕様書 (1)	／／／	赤井	神原	今本	今本		2026. 02	10 全
								図 番 M — 02	
								管理建築士 一級建築士 第344020号 (設備設計一級建築士 第4169号) 赤井 優	

一般共通事項

21 鋼管類の防食処置

22 絶縁継手

23 防振継手

24 伸縮管継手

⑫ 塗装

26 ステンレス鋼管の接合方法

27 溶接配管の検査

⑫ 埋設表示

⑫ 支持金物・固定金具

30 総合試運転調整

31 アスベスト含有建材の処理

⑫ 補修など

⑫ はつり

34 はつり工事における非破壊検査

35 室内空気中の化学物質の濃度測定

⑫ 火災保険等

37 グリーン購入

38 鳥取県公共工事環境配慮指針

39 建築物省エネ法

⑫ 耐震施工

地中埋設

● ペトロラタム系

● プチルゴム系

● 熱収縮チューブ及びシート

● 標準図（施工3）

● (1)絶縁フランジ

● (2)絶縁シート

● (3)絶縁スリーブ

● (4)絶縁ユニオン

※ 合成ゴム製（球形）

● ポリテトラフルオロエチレン製

● ペローズ形（ステンレス製）

※ ペローズ形

● スリーブ形

各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。（さび止め塗装は除く。）

(ア)埋設されるもの（ただし、防食塗装部分を除く）

(イ)垂鉛めっき以外のめっき仕上げ面

(ウ)垂鉛めっきされたもので、常時隠べいされる部分

(エ)垂鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類

(オ)樹脂コーティング等を施したもので、常時隠べいされる部分

(カ)カラー垂鉛鉄板面

(キ)アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウム-垂鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面

(ク)特殊な意匠的表面仕上げ処理を施した面

(ケ)主・各階機械室内等及び電気室内の垂鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管

● 上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所（

呼び径60S以下の継手は、SAS322を満足するものとする。

● ガス配管

● 冷温水配管

● 冷却水配管

非破壊検査の適用（● 放射線透過検査

● 浸透探傷検査又は磁粉探傷検査

抜 取 率（● 標準仕様書による

● %

● 地中埋設機を図示する箇所に設ける。

● 埋設表示用テープを埋設する。（● ガス管

● 屋外給水管

●

ポンプ、屋外設置機器及びビット内に使用するアンカーボルト、ナットはSUS304製とする。

屋外及びビット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融垂鉛めっき仕上げとする。

下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。

● 温度

● 湿度

● 風量

● 騒音

● 水量

● 浄化槽放流水質

● 風速

● じんあい

● 飲料水水质（● 一般飲料水適否検査

● 残留塩素測定

●

● その他水质等（● 雑用水

● 空調用流体

●

公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。

処理を行うアスベスト含有建材の仕様等

建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲

※ 県有施設石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。

※ 官公署その他への手続きは、同仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。

● 施工調査（分析によるアスベスト含有建材の調査）を行う。

分析方法はJISA1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。

● アスベスト粉じん濃度測定を行う。

（測定時期：測定場所：測定点：）

● 洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備等を設置ける。

● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。

対象箇所（）

工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。

既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。

探査方法 ● 電磁誘導式 ● 放射線透過検査

実施する。

工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加する。

（保険の加入期限は、工事完成引渡しまで〔概ね工期+21日〕とする。）

グリーン購入は次のものとする。

● 空調用機器（）

● 衛生器具（）

● 断熱材（）

● 配管材（● 再生硬質ポリ塩化ビニル管）

● その他（）

対象工事

対象工事

設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。

(1) 機器の据付け及び取付け

設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）〔kN〕に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設計用標準水平震度	● 特定の施設	◎ 一般の施設			
設置場所	機器種別	● 重要機器	● 一般機器	◎ 重要機器	● 一般機器
上 層 階 屋上、塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水 槽 類	2.0	1.5	1.5	1.0
中 間 階	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6

上層階の定義 2～6階建：最上階、7～9階建：上層2階、10～12階建：上層3階、13階建以上：上層4階

中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの

重要機器 ● 換気機器 ● 空調機器 ● 熱源機器 ● 防災機器 ● 監視制御設備 ● 危険物貯蔵装置

● 火を使用する設備 ● 避難経路上に設置する機器 ◎ 水槽類（燃料小出槽を含む）

● （）

(2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1／2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

(3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（一財）日本建築センター）を参考にする。

1 空気調和設備

2 冷暖房設備

3 換気設備

15 吹出口・吸込口

16 チャンバー等

17 消音内貼り

18 瞬間流量計及び流量測定口

19 定風量・変風量ユニット

20 温度計

21 冷温水管の空気抜き

22 空調機用トラップ

23 鋼板製煙道

24 オイルサービスタンク

25 地下オイルタンク

26 油面制御装置

27 フィルター等付属品

28 パッケージ空調機的能力表示

29 防振吊り及び支持金物

4 1 ダクト

2 排煙口

3 排煙口開放及び復帰方式

4 排煙風量測定

⑤ 1 中央監視制御装置

2 電源装置

3 温度調節器等

④ 計装工事の配線

	外気条件		室 内 （ 調整目標値 ）				
			一 般		()		
	温 度	湿 度	温 度	湿 度	温 度	湿 度	
	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	
夏 季	℃	%	28.0	℃	%	℃	%
冬 季	℃	%	19.0	℃	%	℃	%

※ SGP（白） ● SGP-V A ● SGP-P A

※ SGP（白） ● SGP-H V A ● ステンレス鋼管（SUS304）

● 架構ポリエチレン管（ファンコイル機器接続部に限る） ● ポリブテン管（ファンコイル機器接続部に限る）

※ SGP（白） ● ステンレス鋼管（SUS304）

※ SGP（黒）

※ STPG370-Sch40（黒） ● ステンレス鋼管（SUS304）

一般配管 ※ SGP（黒） 地中配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管

※ 断熱材被覆鋼管

● ステンレス鋼管 ● SGP-V A ● SGP-V B

※ SGP（白） ● V P

※ 5 K ● 10 K

※ 流量調整弁 ● 定流量弁（● ダイアフラム式流量可変式 ● カートリッジオリフィス形 ）を取付ける。

(ア) 防煙ダンパー ※ 遠隔復帰式 ● 電気式

(イ) ビストンダンパー ※ 遠隔復帰式 ●

※ 低圧ダクト ● 高圧1ダクト ● 高圧2ダクト

● 長方形ダクト ● コーナーボルト工法（● 共板工法 ● スライドオンフランジ工法 ）

（長辺1500mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。）

● アングルフランジ工法

● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。

ボックス ※ 垂鉛鉄板製 ● グラスウール製

シーリングディフューザーの接続は、標準図（施工49）を参考とする。

接続するダクトの施工が困難な場所はフレキシブルダクトを使用してもよい。

線状吹出口には、（長さ+100）×300×300Hの接続チャンパーを設ける。

外壁に面するガラリにチャンパー等を設置る場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。

吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類に内貼する。

内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。

吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口（原則400×600）を取付ける。

形式はビーター管式（コック付）とする。 ● 着脱式 ● 固定式

下記の箇所、若しくは図示により取付ける。

● 冷凍機類の冷水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング

● 冷凍機類の冷却水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング

● ボイラー又は熱交換器の温水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング

● 冷温水ヘッダーの各送り管 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング

● ユニット形空調機と機の冷温水入口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング

● メカニカル形 ● 風速センサー形

機器付属以外の温度計 ※ 工業用バイメタル式 ● ガード付L形温度計

空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。

※ 手動 ● 自動

自動空気抜き弁装置は標準図による。（施工38（g））

機械室の手動式空気抜き配管の保温は分岐から2mの範囲とする。

トラップ形式はフロートボール式（床置型） ※ FRP製保温型 ● FRP製 ● SUS製

材質及び厚さ ● SS400（※3.2mm ● 4.5mm ） ● SUS（※1.5mm ● 2.0mm）

煤煙濃度計 ● 取付ける ● 取付けない ● 取付け座を付ける

煤じん量測定口（80φ×2） ※ 取付ける ● 取付けない

油面計はゲージ式（側圧計）とする。

据付け方法 ● 標準図（施工32）（二重設タンク・タンク室無し） ● 標準図（施工33）（タンク室有り）

タンクの保護被覆 ※ 強化プラスチック ● エポキシ樹脂 ● アスファルト

基礎杭 ※ 不要 ● 要（※ 別途工事 ● 本工事 ）

土留め工事 ● 要 ● 不要

タンクローリー用アース端子を設ける。

油面制御装置の機能 ● 給油ポンプの起動停止 ● 満油警報 ● 減油警報 ●

● 機器表特記による。

● 空調機と機のフィルターは、ロールの場合は1本、ユニットの場合は1セットを付属品として納入する。

インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。

標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。

※ 垂鉛鉄板製 ● 鋼板製（厚1.6mm）

形状 ● バネル形 ● スリット形 ● ダンパー形

取付け ● 天井取付 ● 壁取付

電気式（遠隔操作 ※ 不要 ● 要 ）

建築設備定期検査業務基準書2016年版（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の検査方法に準ずる。

6 衛生器具設備

⑦ 給水設備

⑧ 排水設備

9 給湯設備

10 消火設備

11 ガス設備

12 浄化槽設備

1 衛生器具の参考型番

2 小便器用節水装置

3 自動水栓

4 大便器洗浄弁

5 温水洗浄便座

6 器具と排水管接続

1 量水器

② 配管材料

③ 弁類

④ 水槽のマンホール

① 配管材料

2 満水試験継手

3 バイパスシャフト内配管の保温

4 煙試験

1 配管材料

2 弁類

1 配管材料

2 弁類

3 保温

4 屋内消火栓

5 ガス系消火剤の種類

6 ガス系消火の起動方式

1 都市ガス設備

2 配管材料

3 ガスメータ

4 バルク貯槽

5 容器廻りの配管

6 容器転倒防止

7 ガス漏れ警報器

1 処理種別及び方式

2 型式

3 処理能力

4 放流水の水質

5 排水方式

6 埋戻し土

7 土留め工事

8 マンホールふた

9 消毒薬

型番変更等により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。

※ 小便器一体型 ● 小便器分離型

● 洗浄水量4リットル/回以下

※ 個別感知方式（● AC電源 ● 自己発電 ● 乾電池） ● 手動式

電源供給方式 ● AC電源 ● 自己発電 ● 乾電池

操作方式 ● 電気開閉式（● センサー式 ● タッチスイッチ式）

● 手動式

洗浄用水加温方式 ● 瞬間式 ● 貯湯式

※ 標準図（施工64） ● 標準図（施工65）

● 親メーター ※ 借用 ● 買取（※ 直読 ● 遠隔表示）

● 子メーター ※ 買取 ● 借用（※ 直読 ● 遠隔表示）

(ア)一般配管 ◎ SGP-V B ● SGP-P B ● SUS304 ● SUS316

● H I V P ● 架構ポリエチレン管

(イ)土間下配管 ● SGP-V D ● SGP-P D ● H I V P ● SUS304 ● SUS316

(ウ)地中配管 ● SGP-V D ● SGP-P D ◎ H I V P ● SUS304 ● SUS316

● 水道配水用ポリエチレン管（75～100A） ● 水道用ポリエチレン二層管（50A以下）

(エ)特記なき給水管の最小口径は20Aとする。

(オ)ビニル管の接合方法 ※ 接着接合 ● ゴム輪接合（直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。）

(カ)ポリエチレン管の接合方法 50A以下 ※ 金属製継手 ● 融着継手 75A以上 ※ 融着継手

※ 口径65A以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。

◎ 5 K（受水槽以降の配管に使用） ● 10 K（公営水道に直結する配管に使用）

● 公営水道事業者指定の止水栓又は弁（給水引込部に使用）

屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保温形（二重蓋含む）とする。

(ア)屋内汚水管 ● V P ● R F-V P ● 排水用塩ビライニング鋼管 ● 耐火二層管

(イ)屋内雑排水管 ● V P ● R F-V P ● SGP（白） ● 排水用塩ビライニング鋼管

● 耐火二層管

(ウ)ポンプ排水管 ● V P（水道用） ● H I V P ● 排水用塩ビライニング鋼管（圧送排水鋼管用継手）

(エ)通気管 ● V P ● R F-V P ● SGP（白） ● 排水用塩ビライニング鋼管

(オ)屋外排水管 ◎ V P ● R F-V P ● V U（地中） ● R E P-V U（地中）

● R S-V U ● 卵形管 ● コンクリート管

3階以上にわたる排水管立て管に満水試験継手を ※ 取付ける ● 取付けない

※ 施工する ● 施工しない

※ 行わなくてもよい ● 図示の系統のみ行う

● SGP-H V A ● ステンレス鋼管 ● 架構ポリエチレン管

● 保温付被覆鋼管 ● 鋼管

湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。

※ 5 K ● 10 K

(ア)一般配管 ● SGP（白） ● STPG

(イ)土間下配管 ● SGP-V S ● STPG-V S

(ウ)地中配管 ● SGP-V S ● STPG-V S

※ 10 K ● 16 K

(ア)呼水タンク ※ 施工しない ● 施工する

(イ)充水タンク ※ 施工しない ● 施工する

(ウ)配管の保温は次による。（屋外露出箇所は種別e3・（ハ）・Ⅶによる）

● 屋内消火栓用（※ 施工しない ● 施工する） ● スプリンクラー用（※ 施工しない ● 施工する）

● 連結送水用（※ 施工しない ● 施工する） ● 連結散水用（※ 施工しない ● 施工する）

● 広範囲型2号消火栓 ● 易操作性1号消火栓 ● 屋内消火栓（● 1号 ● 2号）

● 窒素 ● I G-541 ● I G-55 ● H F C-227 e a ● H F C-23

※ 手動 ● 自動手動切替式

都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。

(ア)一般配管 ※ SGP（白） ● 合成樹脂被覆鋼管

(イ)土間下配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管

(ウ)地中配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管 ● ガス用ポリエチレン管

● 親メーター ※ 借用 ● 買取（取付け ※ 別途 ● 本工事）

● 子メーター ※ 買取 ● 借用（取付け ※ 本工事 ● 別途）

● 縦型 ● 横型 ● 借用 ● 買取

● 標準図（施工73）の ● 要領（a） ● 要領（b） ● 要領（c）

● 標準図（施工74）の ● 要領（a） ● 要領（b）

● 不要 ● 要（※ 別途工事 ● 本工事）

● 小規模合併処理（● 分離接触ばっ気方式 ● 嫌気ろ床接触ばっ気方式 ● 脱窒ろ床接触ばっ気方式

● その他性能評価を受けた方式（）

● 合併処理（● 接触ばっ気方式 ● 長時間ばっ気方式 ● 回転板接触方式）

● ユニット型 ● 現場施工型

● 処理対象人員 人 ● 処理水量 m³/d

● 流入BOD 200mg/L ● 放流水質BOD 20mg/L以下

● T-N mg/L以下 ● T-P mg/L以下

※ 自然流下 ● ポンプ排水

● 砂 ● 根切土の中の良質土

● 不要 ● 要（図示による）

※ 製造者標準仕様（ロック式） ● MHA型（ボルト式）

3ヶ月相当分を納入する。

工 事 名

畜産試験場受水槽更新工事

図 名

機械設備工事特記仕様書（2）

縮 尺

管理建築士

査 図

担 当

作 図

作 図

株式会社 ティビーエム（ティビーエム環境設備設計事務所）
鳥取県米子市目久美町34番地2
鳥取県知事登録 第03-888号 一級建築士事務所

管理建築士 一級建築士 第344020号（設備設計一級建築士 第4169号） 赤井 優

年 月 2026.02

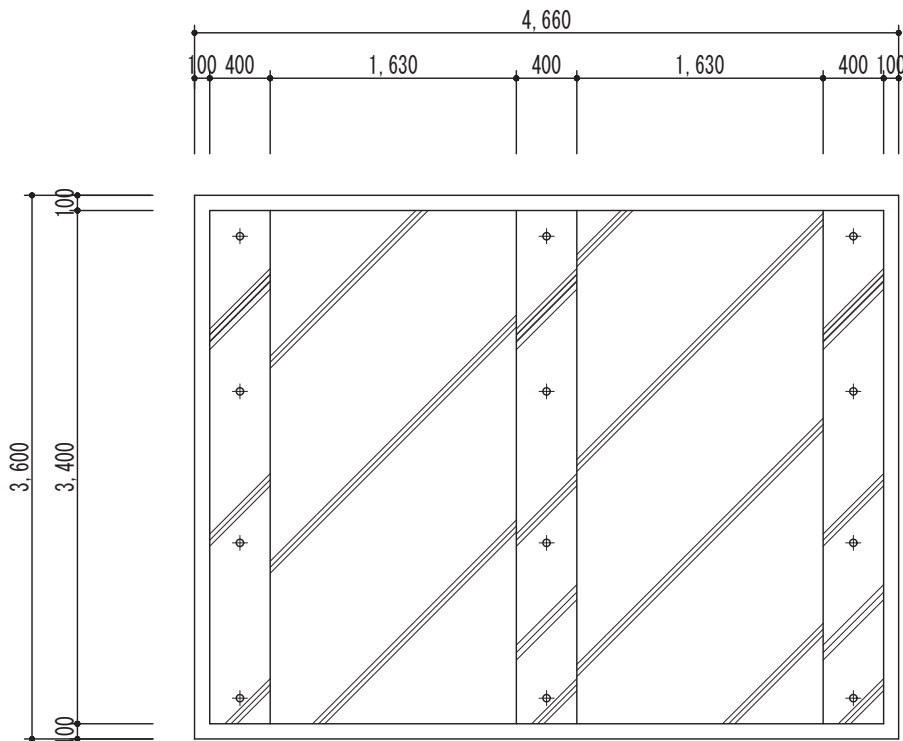
図 番 M-03

頁 03

10 全

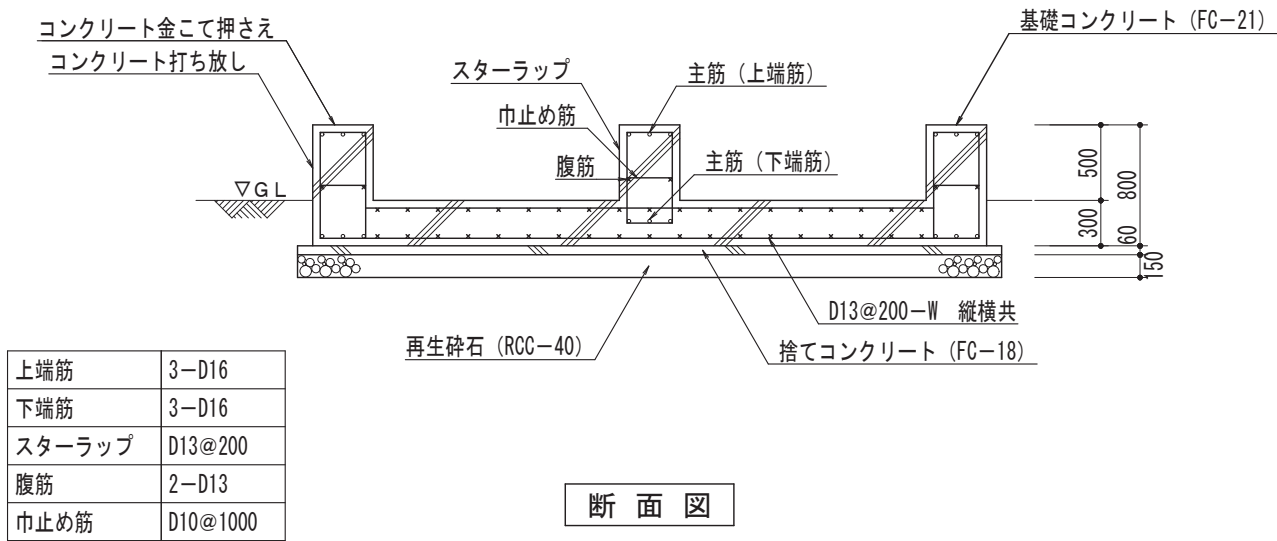
改修後 給水機器リスト

記 号	名 称	仕 様	数量	設置場所・備 考
TW-1	受水槽	形 式	FRP製複合板形パネルタンク組立式、2槽式、外補強構造	1 屋外
		寸 法	水槽部（保温型）：3,000×4,000×2,000H	国土交通省仕様
		容 量	24.0m3（呼称）	コンクリート基礎（本工事）
		耐 震 強 度	KH=1.0G 耐雪：積雪1m	
		付 属 品	梯子（内：PVC、外：垂鉛メッキドブ漬け）、マンホール600φ（密閉式、防藻蓋鍵付）、	
			耐雪型通気口（防虫網付）、吐水口用防波筒 ～各2個	
			電極座（カバー、防波筒）～各4個、鋼製平架台（溶融垂鉛メッキ仕上げ）、	
			配管及び電気配管用支持架台付、他付属品共	
			組立用ボルト・ナットは全てSUS製とする。（搬入・組立共）	



アンカーボルト位置
12-M12×155L

平面図



上端筋	3-D16
下端筋	3-D16
スターラップ	D13@200
腹筋	2-D13
巾止め筋	D10@1000

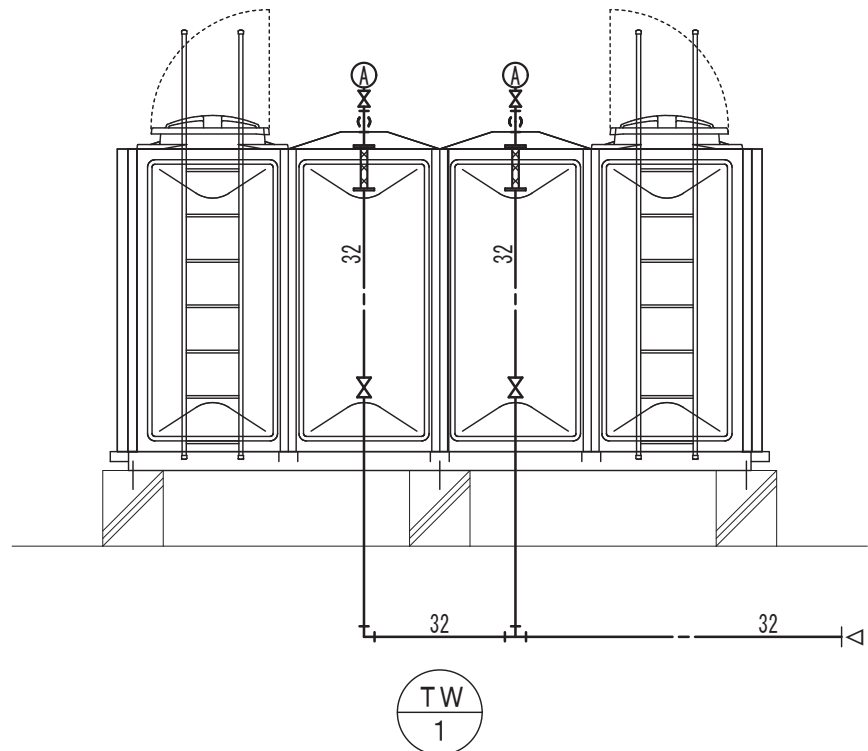
断面図

※基礎コンクリート：Fc=21N/mm2

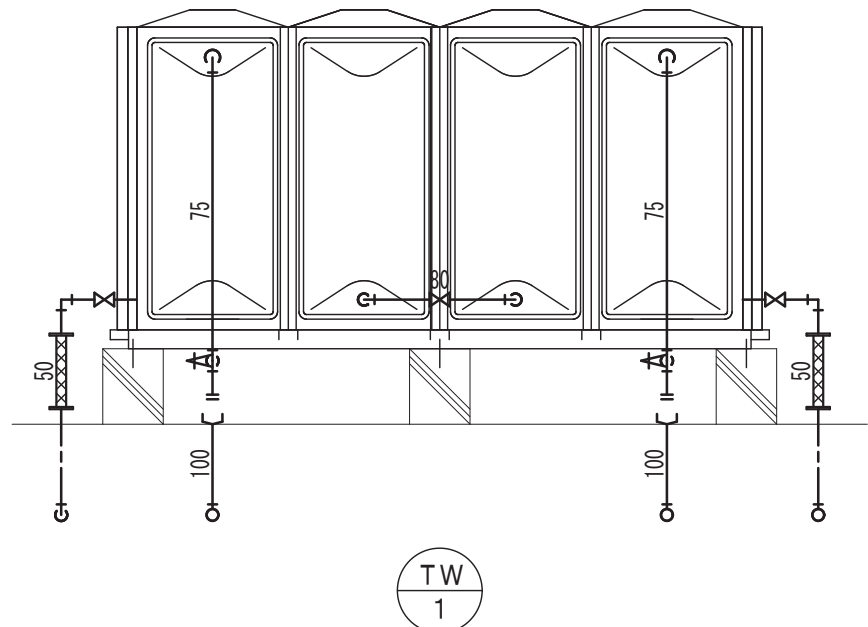
受水槽基礎 改修後 参考詳細図 S=1/50

凡 例

記 号	名 称	摘 要	
———	給水管	受水槽廻り	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VB）
		屋外埋設	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）
———	排水管	屋内・屋外	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
-----			既設配管接続部を示す。

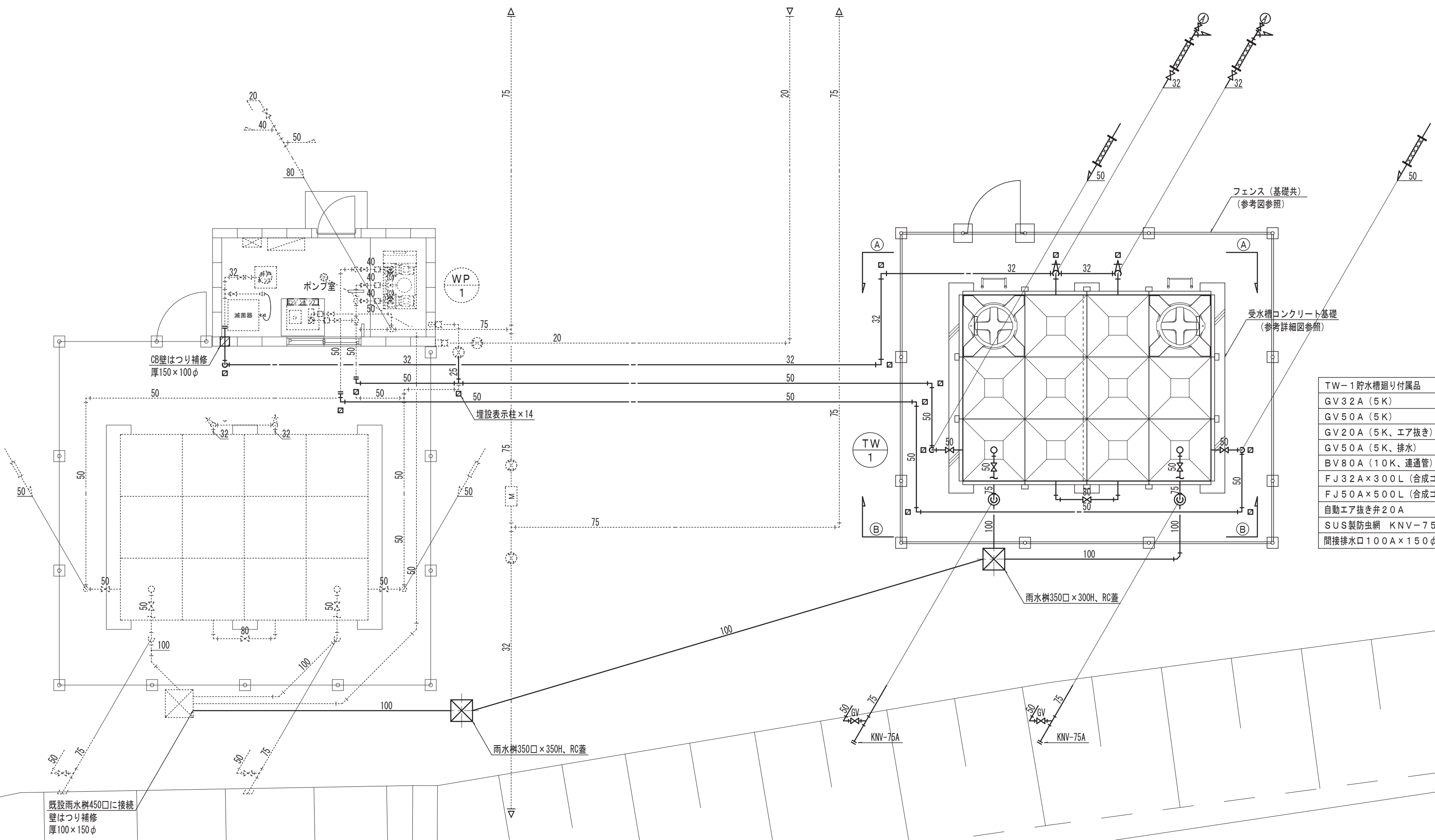


給水設備 改修後 (A)-(A)断面図 S=1/50



給水設備 改修後 (B)-(B)断面図 S=1/50

鳥取県
令和7年度
J2500271
中部総合事務所



TW-1 貯水槽廻り付属品	
GV32A (5K)	2
GV50A (5K)	2
GV20A (5K, エア抜き)	2
GV50A (5K, 排水)	2
BV80A (10K, 連通管)	1
FJ32A×300L (合成ゴム)	2
FJ50A×500L (合成ゴム)	2
自動エア抜き弁 20A	2
SUS製防虫網 KNV-75A	2
間接排水口 100A×150φ	2

給水設備 改修後 受水槽平面図 S = 1 / 50

特記事項

- 部は新設機器・配管を示す
- 部は既設機器・配管を示す。
- 撤去工事に先行して新設配管工事を行う。
- 新設配管工事に際し、支障となる撤去配管は先行して撤去を行う。
- 新設水槽への切り替えは断水時間が短くなるようにすること。

工事名
畜産試験場受水槽更新工事

図名
給水設備 改修後 受水槽平面図

縮尺

1 / 50

管理建築士

赤井

査図

神原

担当

今本

作図

今本

作図

TBM
TECHNICAL BUILDING MANAGEMENT

株式会社 ティビーエム (ティビーエム環境設備設計事務所)
鳥取県米子市目久美町34番地2
鳥取県知事登録 第03-888号 一級建築士事務所

管理建築士 一級建築士 第344020号 (設備設計一級建築士 第4169号) 赤井 優

年月 2026. 02

図番 M 06

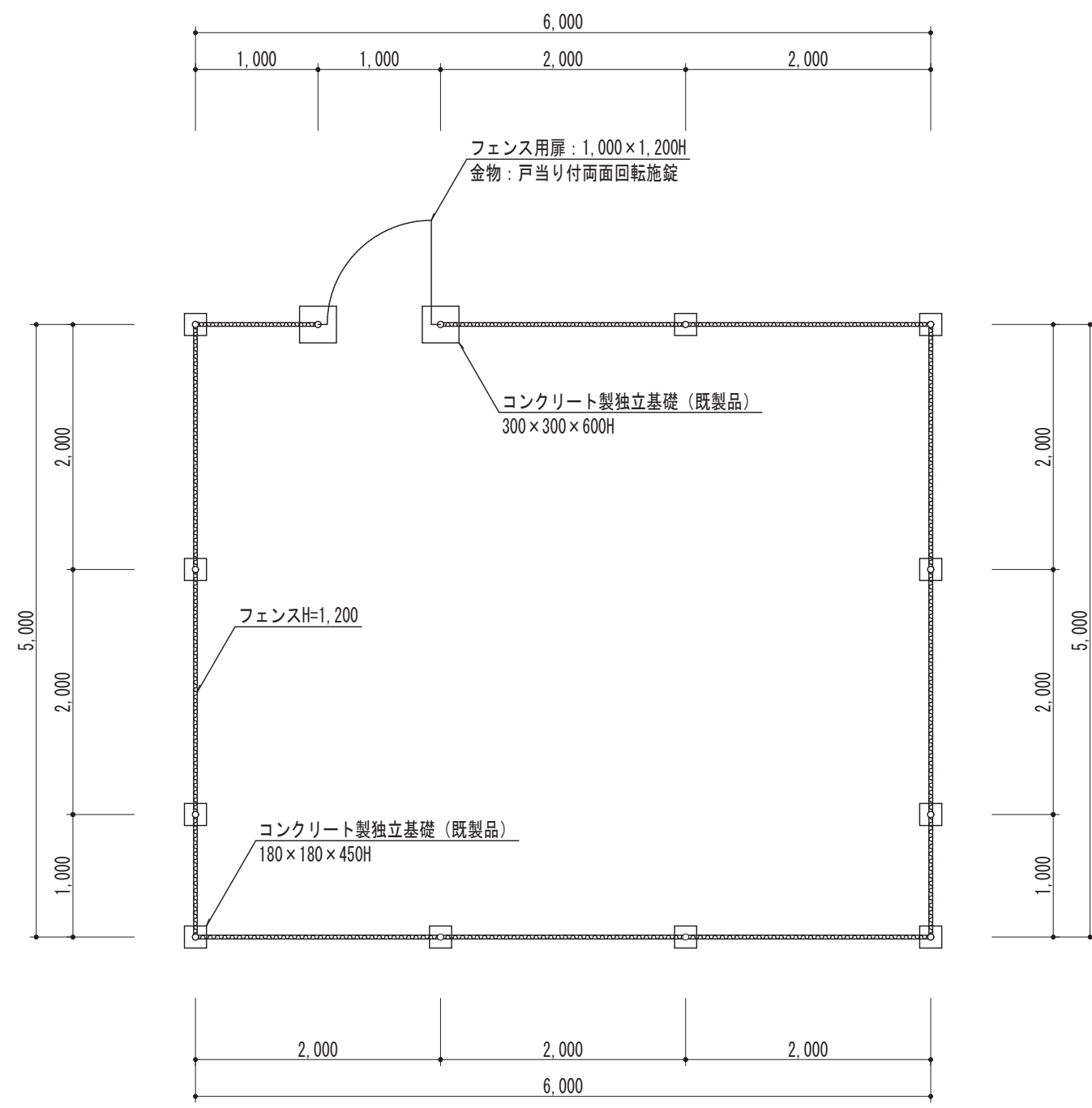
頁

06

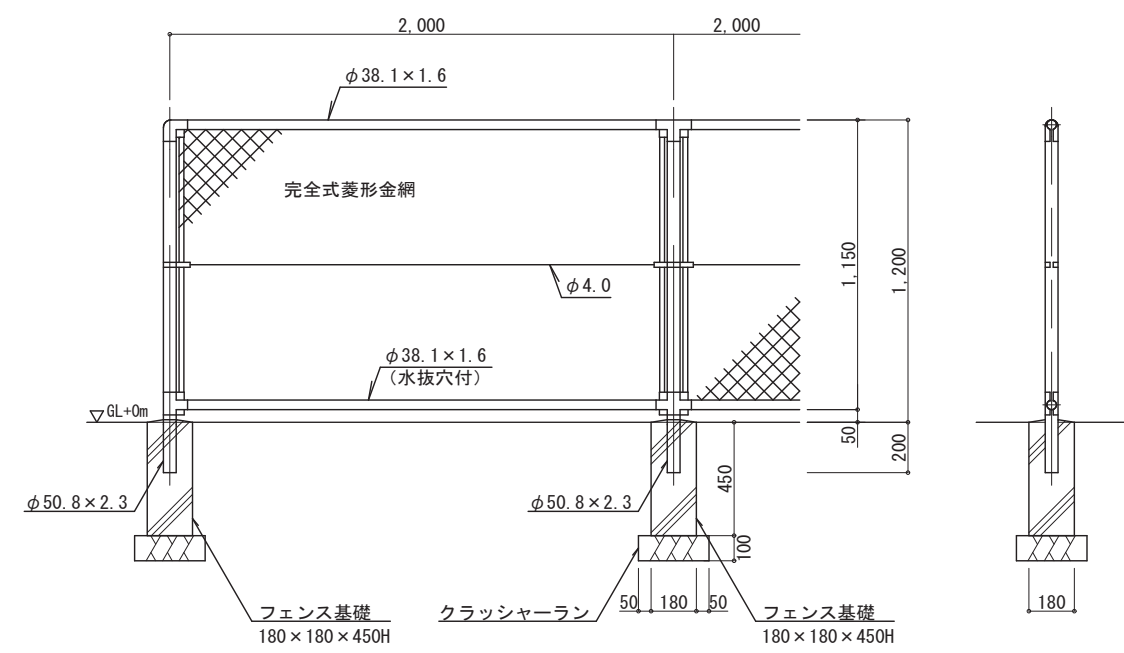
10

全

鳥取県
令和7年度
J2500271
中部総合事務所

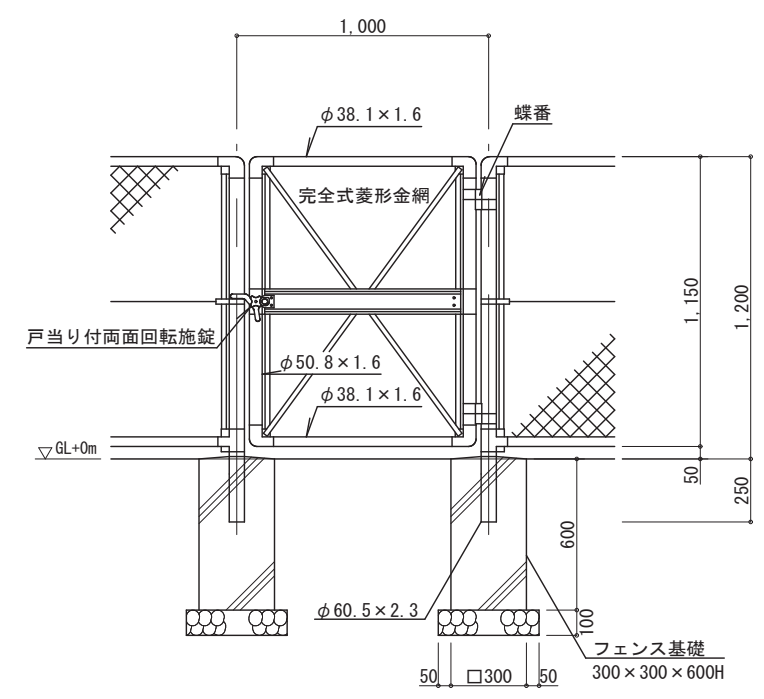


給水設備 改修後 フェンス工事平面図 S = 1 / 50



フェンス詳細図 (参考) S = 1 / 30

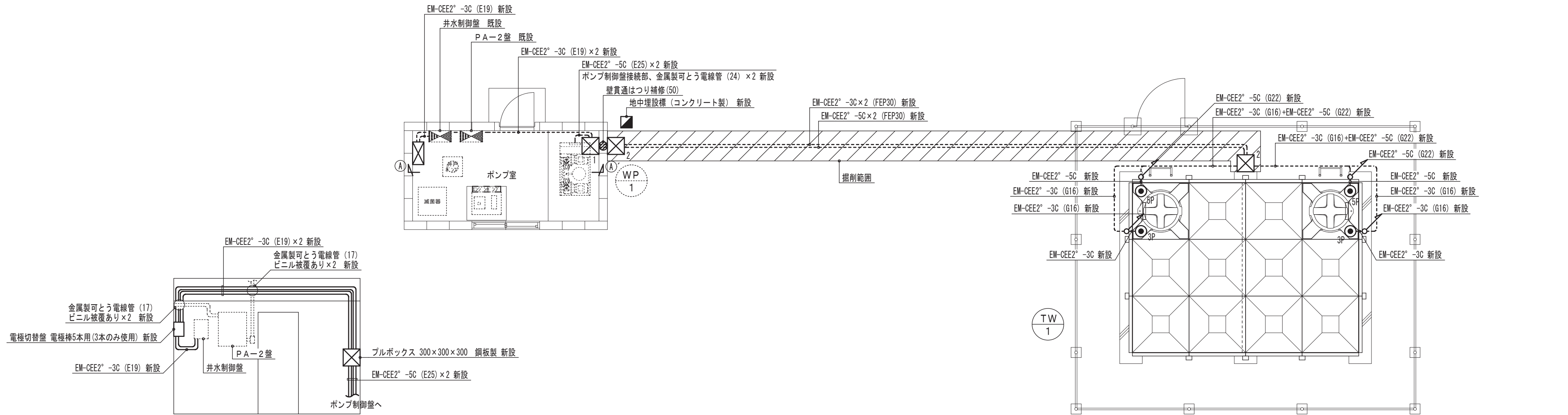
- 特記事項
- 外装は金網類を除く他は溶融亜鉛メッキとする。
 - 金網は高耐食性新亜鉛合金めっき線とする。



フェンス扉詳細図 (参考) S = 1 / 30

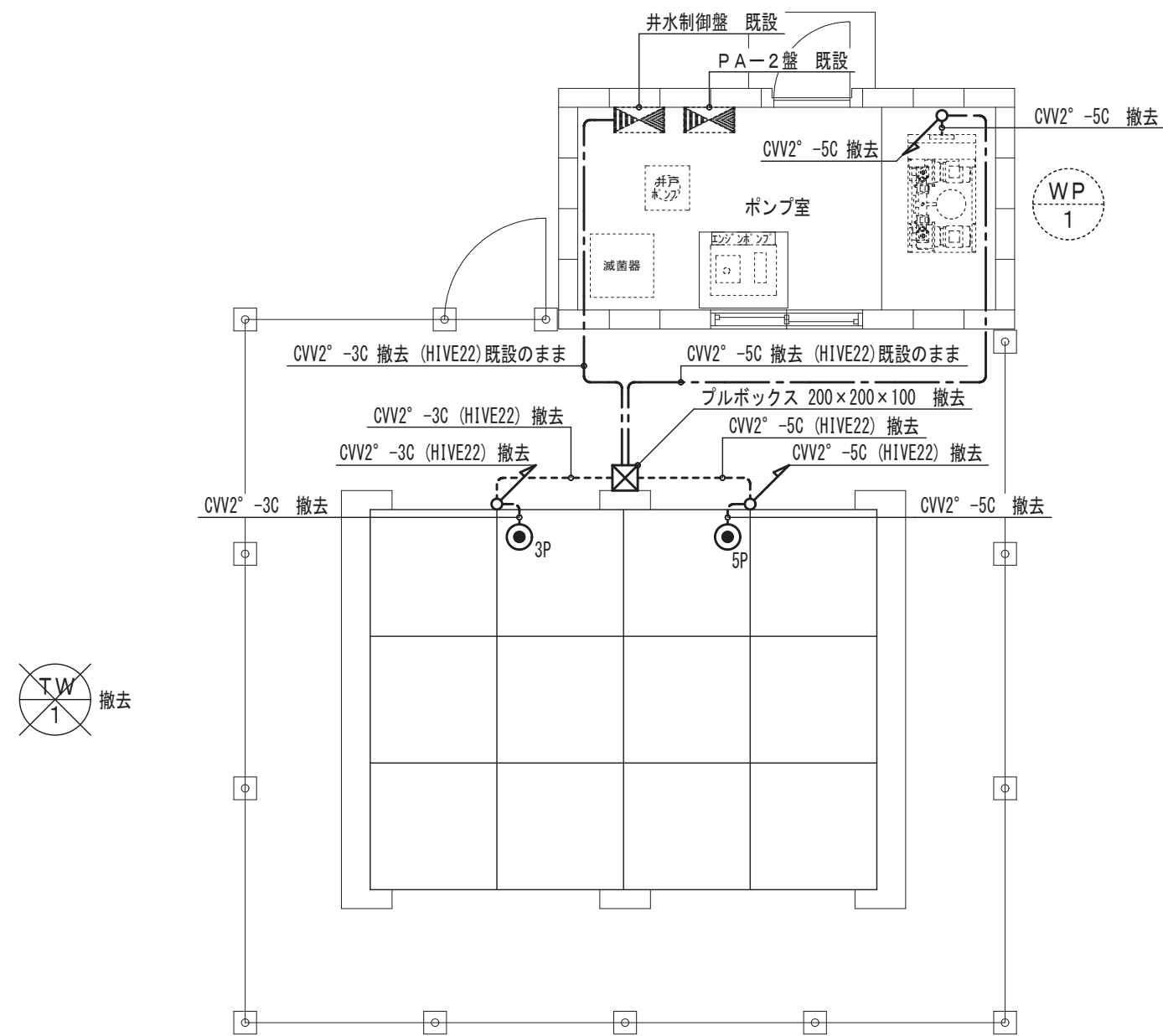
- 特記事項
- 外装は金網類を除く他は溶融亜鉛メッキとする。
 - 金網は高耐食性新亜鉛合金めっき線とする。
 - 本図門扉は片側180°開きとする。



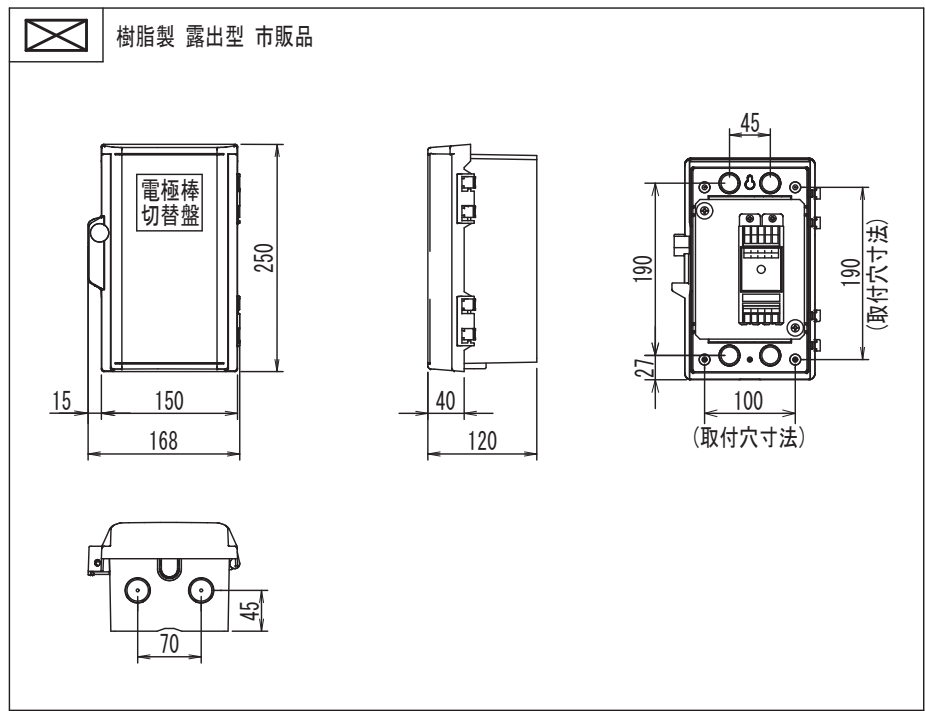


①－①' 断面詳細参考図

自動制御設備 改修後 受水槽平面図 S = 1 / 50



自動制御設備 撤去 受水槽平面図 S = 1 / 50



井戸ポンプ制御用電極切替盤 参考姿図

凡例（改修後）

図中特記なき記号は下記による

記号	名称	備考	概要
⊗	井戸ポンプ制御用電極切替盤	電極棒5本用(3本のみ使用)	新設
⊙ _{3P}	電極	3P	新設
⊙ _{5P}	電極	5P	新設
⊗ ₁	ブルボックス	300×300×300 銅板製	新設
⊗ ₂	ブルボックス	300×300×300 SUS製	新設

凡例（撤去）

図中特記なき記号は下記による

記号	名称	備考	概要
⊙ _{3P}	電極	3P	撤去
⊙ _{5P}	電極	5P	撤去

特記事項

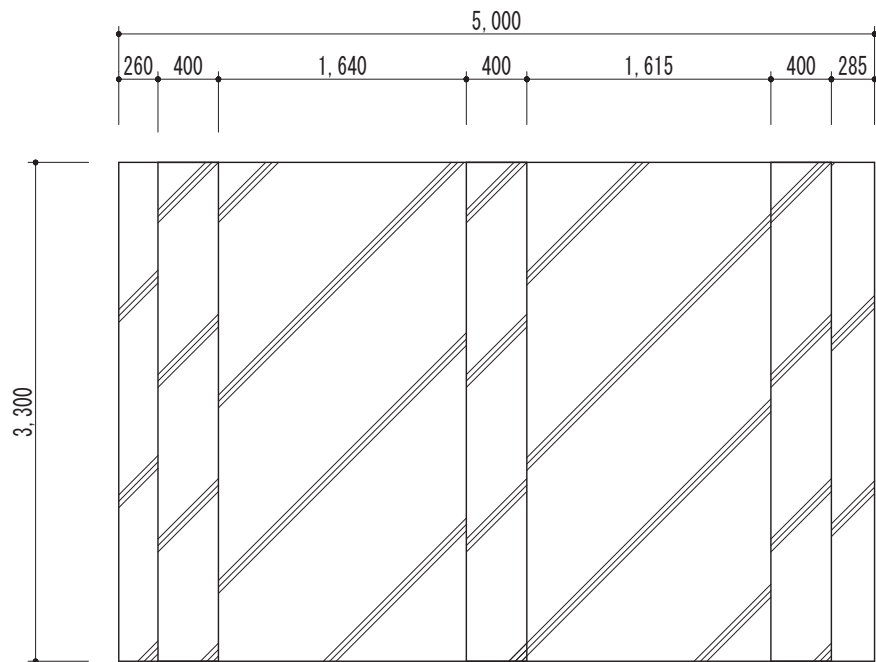
- 部は新設又は撤去配線・配管を示す。
- 部は既設配線・配管を示す。
- 地中埋設配管は残置とする。
- 撤去工事に先行して新設配管工事を行う。
- 電極切替盤は電極棒5本用を見込んでいるが結線するのは3本(ON, OFF, 共通)とする。
- 電線類について、本工事は環境配慮の観点から、原則としてEMケーブルを使用するものとする。
EM電線類で規格等の定めのないものはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。
盤内配線はEM電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。
- 電線本数・管路等について、分電盤、制御盤、端子盤などの2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数・管径等は監督職員の承諾を受けて変更しても差し支えない。
- 屋外露出配管の仕上げについて、屋外露出配管（厚銅電線管）で塗装を行わない場合は、溶融亜鉛めっき仕上げ〔めっき付着量 300g/m²以上〕とする。
- 波付硬質合成樹脂管（FEP）について、波付硬質合成樹脂管（FEP）を使用する場合は不燃又は、燃焼性とする。
- ブルボックスの塗装について、ステンレス製ブルボックスの塗装 無（素地仕上）とする。
- 屋上、屋側の支持金物等について、ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛メッキを施したものとする。

撤去 給水機器リスト

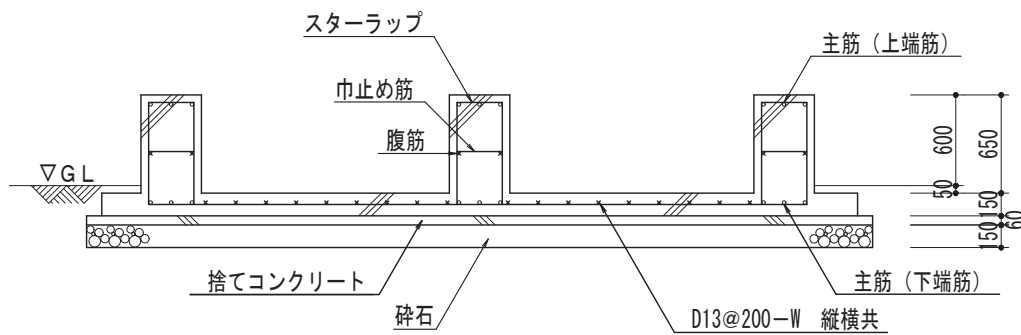
記 号	名 称	仕 様	数量	設置場所・備 考
TW-1	受水槽	形 式	FRP製パネルタンク（保温型）、2槽式	1 屋外
		容 量	24m ³	
		付 属 品	マンホール蓋×2、内・外梯子、防波筒、電極取付座、鋼製平架台、他標準付属品	
		機 器 寸 法	3,000×4,000×2,000H	

凡 例

記 号	名 称	摘 要	
	給水管	受水槽廻り	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VB）
		屋外埋設	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）
	排水管	屋内・屋外	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
			配管切断部を示す。



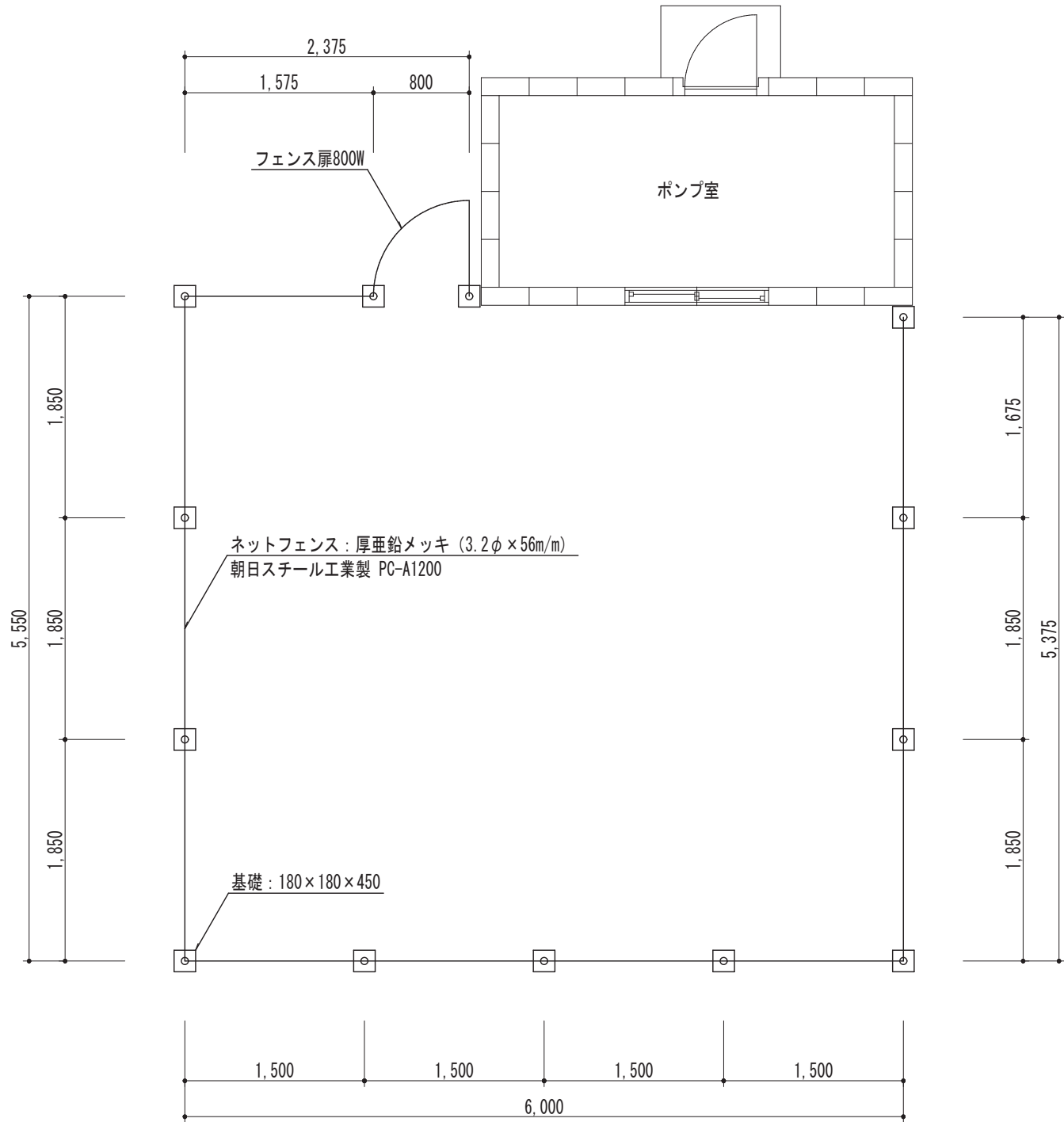
平 面 図



断 面 図

上端筋	3-D16
下端筋	3-D16
スターラップ	D13@200
腹筋	2-D13
巾止め筋	D10@1000

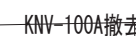
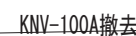
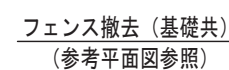
受水槽基礎 撤去 参考詳細図 S = 1／50



フェンス 撤去 参考平面図 S = 1／50



TW-1 受水槽廻り付属品撤去	
GV32A (給水)	2
GV50A (給水)	2
GV50A (排水)	2
BV80A (給水)	1
FJ32A×500L (SUS、給水)	1
FJ50A×500L (SUS、給水)	2
防虫網 KNV-100A	2
間接排水口100A×150φ	2



給水設備 撤去 受水槽平面図 S = 1 / 50

- #### 特記事項

1. ————— 部は撤去配管を示す。
2. 部は既設配管を示す。
3. 撤去工事は新設受水槽配管切り替え後に行うこと。
4. 既設受水槽基礎及びフェンス基礎撤去後は真砂土で埋め戻すこと。
5. 既設配管ルートを図面や試掘等でよく調査を行ってから施工を行うこと。